

いよいよ新学期のスタート。分厚い講義要項を片手に、時間割の作成に頭を悩ませる季節の到来でもありますが、さて皆さんはどの程度に履修科目を選びますか。もちろん学びたいことが最優先？必修を軸に置いたら、できるだけ空き時間がない方がいい？来季そんな授業が「番」もし、迷っているならこんな選び方をお勧めします。「TOEFL」は東洋大学でしか学べない「東洋大学らしい」プログラムで、オリジナルな力を、存分に発揮してください。

「東洋大学で学ぶ」との意味を考えた



教務部長 大島 尚 社会学部教授

皆さんが在学する東洋大学は9学部43学科にもよりますが、多彩な学びのある総合大学。たまたまはほかの大学にも文学部や経済学部、工学部など同じ名称の学部は無数にありますが、東洋大学の文学部で学ぶことの意味、東洋大学の学部で学ぶことの意味、などを考えたことはありますか？

所属する学部の専門をしりて、このことはもちろん大切ですが、それと同時に「多角的な視野でものを考えることができる」という力をつけることも大学生として大変重要なことです。多彩な専門分野の講義を通じて多様なものの見方を学ぶことは、教養を身につけるという意味でも、専門の勉強への深みを増すという点でも、皆さんの人生に大きな影響を与えるはず。

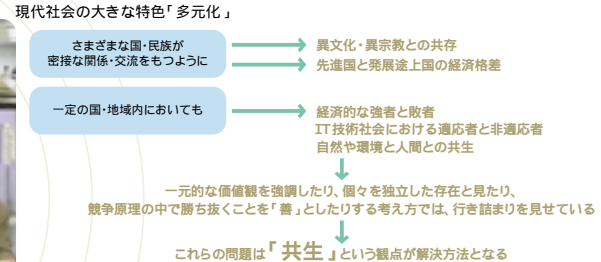
授業は全て、複数の教員が担当するオムニバス形式です。

この授業で力をつける！

東洋大学が教育・研究を通じてあらたな学問の構築を目指す「共生学」。総合大学の強みを活かした多角的な視点で、次世代のキーワード「共生」を学ぶ！ 全学総合 A (木曜5限・春学期) 現代社会と「共生」の課題

東洋大学の目指すテーマ

「共生」という観点から包括的・総合的に解決していく学問として、「共生学」という学問の構築を目指し、どんな人間にとっても真に自己実現が可能な「共生社会」の実現を追究する



授業担当者からのメッセージ 竹村牧男 文学部教授

現代社会は、地球が一つになり、多くの異なる価値観を持つ他者との共生が課題となっています。一方、環境破壊が進み、自然との共生も求められています。それは、次世代以降の他者との共生でもあるでしょう。現代社会の最重要の問題である、異なる他者との共生、見知らぬ他者との共生の課題をどう考え、今の社会をどう変えていけばよいのか、さまざまな角度から考え、みんなでともに、未来の時代を拓いていきましょう。

この授業で力をつける！

国際社会とはさまざまな「地域づくり」の集合体。人々の生活を知り、「共生」を「環境」との関わりから見る 全学総合 A (火曜6限・春学期) 「地域づくりからみた国際社会と国際人」

都市計画、土地・住宅問題、環境管理、行政学、経済学、国際協力、観光、文化人類学、社会学などの専門からそれぞれのフィールドワークによって得られた研究成果に基づき、国際社会の特質やそこに生活する人々について事例を紹介しながら、国際社会の様相を探ります。

「全学総合科目」は特色あるプログラムのひとつです。双方向遠隔講義システムを利用して、4キャンパス全学を結ぶ授業スタイルは、大画面スクリーンを効果的に活用し、ライブ感を活かした東洋大学独自のコンテンツを提供しています。

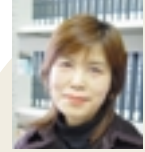
この授業で力をつける！

「共生」のためにはコミュニケーションが大事。「意見を持つ」「話す」「書く」のスキルを磨く！ 全学総合 B (木曜5限・秋学期) 「実践！日本語にチャレンジ」

授業は日本語教育の専門家(日本語学、日本語教育、ディベート、キャリア・ディベロップメントなど多方面で活躍する講師)によるオムニバス形式で展開し、相手に分かってもらえる話し方と書き方、論理的な議論の仕方、論理的な文章の書き方、自分の長所を伸ばし、それを仕事に生かす方法などを学びます。「書く」作業に積極的に取り組み、レポートを書く手順をシミュレーションしたり、ディベートの手法を取り入れながら「プレゼンテーション」に必要なスキルを身につけます。

こんなテーマを学びます

「人にわかる話し方・書き方」とは何か作業を通じて体験/ディベートの手法を使いながら論理的な話し方を身につける。キャンパス対抗ゲーム/上手なレポートを書く/大学時代にできる自己啓発型学習/表現の手法/自分のいいところを見つけ、伸ばすためのトレーニング



授業担当者からのメッセージ 三宅和子 文学部教授

「日本語があぶない!!」という不安感の中で、よく槍玉にあげられる若者の日本語力。でも、どこがどうダメなのか、どんな方法で力をつければよいのか分からない...そう感じている人も多しはず。この授業は、魅力的な日本語の使い手になるための第一歩を支援します。キャッチフレーズは「自分のことばを取り戻そう」。周りと協調しながら生きる力、自己表現する力などは社会人としても必要です。そんな力をどうつけるのか、この授業で分かってくるはず。



白山キャンパスをはじめとする特別教室から映像を配信。

この授業で力をつける！

ビジネス・コミュニケーションに必要な実用英語を遠隔授業のメリットを活かしたインタラクティブな授業で。 全学総合 B (火曜6限・秋学期) 国際理解に必要な実用英語

英語の履歴書やビジネスレターの書き方など、将来の仕事に直接役立つビジネス英語に特化した内容。東洋大学の学生に合わせたオリジナルのテキストやビジュアル教材を利用して、日常的なものからビジネスに直結するものまで幅広く扱います。

授業の頭文字をとったSCAT(スキャット)とはジャズなどで定番の唱法で、ルルル-ラララ-と「歌詞を伴わない歌唱」を指す。スイングによってメロディを口ずさむように英語が出てくることを稱した愛称だとか。

この授業で力をつける！

週4日徹底的に英語演習。留学や英語を活かした仕事をを目指す人のための画期的なプログラム!

「英語特別教育科目」(秋学期) Special Course in Advanced TOEFL(SCAT)

使える英語を身につける 英語を繰り返し使う環境を作り出す 週4回の授業では、日本語はいっさい使えない! 留学への道を開く-まずはTOEFLを目指す 英語を繰り返し使う環境を作り出すには「留学」が有効。ただし、留学するためにはある程度の英語力が必要 TOEFLを受験し、基準得点をクリアするための力を徹底的に鍛える TOEFLとは 英語を母国語としない学生が、英語圏の大学に留学する際の英語力の指標となる試験。最低170点以上を要する。 確立された英語教授法を持つ講師陣 アメリカでは、英語を母国語としない人々に英語を教える 実践的な教授法が学問分野として確立。 その分野の専門家がチームとなって授業を担当します。 授業以外にもオフィスアワーを設け、個別指導を受けられます。

授業担当者からのメッセージ 中鉢恵一 経営学部助教授

「芸は身をたすく」という言葉がありますが、日本には逆に「英語は身をたすく」社会。英語のスキルがあるかどうかで皆さんの進路選択の幅が広がることは間違いありません。今年度スタートする英語特別教育科目SCAT(Special Course in Advanced TOEFL)は従来の英語プログラムとは別に、週4回英語のネイティブ教師にTOEFLを学ぶという画期的なシステム。もちろん日本語はまったく使えません。1年間のプログラムのあとで、規準点を満たせば、正規留学が待っています。思い切って、英語漬けになってみませんか。多くの皆さんが、英語を通じて自らを鍛えることに挑戦してくれることを願っています。



この授業の開始は10月ですが、6月中旬に受講希望調査を行います。詳細は遠隔授業時に配布する資料をご確認ください。

ここで紹介した講義についての詳細は各所属学部の講義要項をご確認ください。